



総務省キャリア官僚自殺 公務上災害と認定

12月25日 15時33分

シェアする

2019年12月25日 15:33



全文

総務省のキャリア官僚がおよそ5年前に自殺したのは、長時間労働でうつ病になったことが原因だとして、公務上の災害に認定されたことが分かった。

公務上災害として認定されたのは、2014年に自殺した総務省のキャリア官僚の男性。遺族の弁護士によると、男性の時間外労働は、多くの月で100時間を超えていて、2011年には、178時間に達していたことが総務省の資料で明らかになった。

総務省は、長時間労働などが原因でうつ病を発症し自殺したと結論づけたという。遺族は、「なぜそこまで追い込まれることになってしまったのか明らかになることを望んでいます」とコメントしている。

遺品の紙に「やったやった 残業確実」

総務省キャリア自殺 公務災害認定

総務省キャリア官僚の男性(当時31)が自殺したのは長時間労働でうつ病を発症したためだったとして、同省が公務災害(労災)を認定した。23日付。代理人弁護士が25日発表した。

男性は2008年に総務省に入省。11年3月は東日本大震災の対応などで時間外労働が168時間、同4月は178時間にのぼった。13年11月には135時間の残業があり、この月に過重労働が原因のうつ病を発症したとみられる。男性は翌年

3月下旬に自殺した。

記者会見した遺族側代理人の川人博弁護士によると、男性の遺品からは、総務省に内定した際の懇親会で先輩官僚たちが披露した歌の歌詞の紙が見つかったという。

「やったやった 国会待機」「やったやった 残業確実」「2時間睡眠」などの文言があり、川人氏は「男性は内定段階から過酷な長時間労働を前提に職場に迎え入れられていた」と指摘した。

総務省から5年にわたって何の

やったやった(x2)
国会待機
やったやった(x2)
残業確実

亡くなった男性の遺品から見つかった紙

説明も受けられなかったことから、遺族が今年10月9日に公務災害の認定を申請した。

総務省は朝日新聞の取材に「男性が亡くなった後、調査は開始していたが、公務災害に認定できるかどうかの精緻な説明を詰め切れないまま手続きが遅くなっていた。申し訳なく思っている」(秘書課)とした。